

サントリーホールディングス株式会社

2017年12月期中間決算 説明内容

説明者：サントリーホールディングス株式会社
専務取締役 肥塚眞一郎

平素は、弊社サントリーグループへの多大なご支援を頂き、誠にありがとうございます。
この場を借りまして、御礼を申し上げます。
まずは、先日の九州北部や東北での豪雨災害により、甚大な被害を受けられた方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

①当期業績について

- 2017年度中間期、サントリーグループの業績についてご説明させていただきます。
売上高は1兆2,940億円、前年同期比101.6%となりました。
営業利益は937億円、前年同期比107.3%、
親会社株主に帰属する中間純利益は472億円、前年同期比132.5%となり、
中間期としましては、売上高は13期連続、営業利益は5期連続で過去最高を更新し、
お蔭様をもちまして計画を若干上回る結果となりました。
- のれん等償却前利益は、営業利益が1,279億円、前年同期比105.3%、
親会社株主に帰属する中間純利益が752億円、前年同期比118.5%となっております。

②事業の動向について

サントリーグループは、「飲料・食品事業」「酒類事業」を柱にして、国内外で活動を展開してまいりました。

■飲料・食品セグメント

昨日サントリー食品インターナショナル社から報告いたしました通り、ブランド強化や新規需要の創造に取り組み、増収・増益を達成しました。
売上高は、6,857億円、前年同期比101.7%、
営業利益は、527億円、前年同期比107.1%となりました。

■酒類セグメント

売上高は、4,805億円、前年同期比103.1%と増収となり、
営業利益は、419億円、前年同期比106.1%と増益となりました。

▽酒類セグメントの中心であるビームサントリー社は、売上は一桁台半ばの増収となりました。特に米国の売上は、前年同期比一桁台半ば増となり、北米・中南米地域の伸長を牽引しました。また、主力の「ジムビーム」「メーカーズマーク」は、世界で二桁増と大きな伸びを果たし好調な販売となっております。

国内のスピリッツ事業については、サントリースピリッツ（株）が前年同期比 105%の売上となりました。ウイスキーでは、戦略ブランド「知多」「トリス〈クラシック〉」が好調に推移し、「ジムビーム」は“ビームハイボール”を中心に積極的なマーケティング活動を展開しました。なお、7月には、世界的な酒類コンペティションにおいて、「響 21年」が全エントリー商品の中の最高賞「シュプリーム チャンピオン スピリット」を受賞しました。RTD は、「-196°C ストロングゼロ」が食中酒としての需要を大きく拡大したことに加え、「ほろよい」や、ハイボール缶も前年同期を大きく上回るなど、前年同期比 113%と極めて好調に推移しました。

▽一方、ビール類の総市場は前年同期を下回りました。その中で、当社のビール事業は、「ザ・プレミアム・モルツ」ブランドが前年同期比 104%と好調に推移しましたが、事業計の販売数量では前年同期比 100%となりました。足元の状況としましては、7月は前年同期を上回っており、下期も積極的に活動し年間計画達成を目指してまいります。

以上のように、「飲料・食品事業」「酒類事業」は、売上・利益ともに前年同期を上回り、順調に推移していると認識しております。

■その他セグメント

売上高は前年同期比 96.4%の 1,278 億円となりました。これは、昨年中国におけるビール事業の合弁契約を解消したことなどに伴うもので、既存事業では順調に推移しております。営業利益は 182 億円、前年同期比 112.0%となりました。

③ビーム社統合後の成果

ビームサントリーとの統合についても活動が進んでいます。

■販売面では、日本発の“ハイボール”という飲み方を、海外において「ジムビーム ハイボール」という形で積極的に展開しております。現在、アジア各国において活動を強化しており、レストランなどでの料飲店様での取り扱いが拡大しております。

■生産面では、サントリーが創業以来大切にしてきた“MONOZUKURI”という価値観をグローバルに共有し、相互の技術交流やシナジー発揮によって品質管理や生産性向上、新しい価値の創造を目指しています。

■商品面では、7月に発売になりましたジャパニーズクラフトジン「ROKU(ロク)」や、来月発売予定の瓶入り RTD「サウザクーラー」など、日本のチームとアメリカのチームが共同で開発した商品が順次発売できるようになってきました。今後も、さまざまなカテゴリーで両者の知見を生かした開発を進めていきたいと考えております。

■環境活動についても、米国ケンタッキー州のメーカーズマーク蒸溜所周辺の水源地保全活動を実施するなど、連携分野はますます拡大しております。

④財務体質の強化について

事業が計画どおり推移しており、財務体質の強化も順調に進んでいると認識しております。

⑤2017年通期の見通し

- 通期業績予想については、当初予想を据え置き、
売上高は、2兆6,900億円、前年同期比101.5%、
営業利益は、2,010億円、前年同期比101.5%、
親会社株主に帰属する当期純利益は、710億円、前年同期比58.4%
を計画しています。
のれん等償却前営業利益は、2,670億円、前年同期比101.0%を計画しています。
- 中間期は、計画を若干上回る結果となりましたが、サントリーグループの事業の多くは、夏および年末が大きな需要期となります。下期も、引き続き日本やアメリカ市場における競合激化や、先行き不透明な経済の状況が見込まれる中、ブランド育成の強化を図るなど気を引き締めて活動に当たり、通期見通しを上回る結果を残したいと考えております。

以上、私からの説明とさせていただきます。

今後とも、ご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

以 上